

# 小児肥満症の診断基準

小児肥満症ガイドライン 2017

編集 日本肥満学会 より

## 肥満の定義

6歳～18歳未満の小児で肥満度が+20%以上、かつ体脂肪率が有意に増加★した状態。

### ★体脂肪率の増加

男児 : 年齢を問わず 25% 以上

女児 : 11歳未満は 30 % 以上  
11歳以上は 35 % 以上

## 肥満症の定義

肥満に起因ないし関連する健康障害（医学的異常）を合併するか、その合併が予想される場合で、**医学的に肥満を軽減する必要がある場合**をいい、疾患単位として取り扱う。

# 肥満症の診断項目

A項目 : 肥満治療を必要とする医学的異常

B項目 : 肥満と関連が深い代謝異常

参考項目 : 身体的因子や生活面の問題

肥満の程度を勘案して判定。

① A項目を1つ有するもの

② 肥満度が+50%以上でB項目を1つ以上を満たす

③ 肥満度が+50%未満でB項目の2つ以上を満たす

ものを小児肥満症と診断する

※ 参考項目は2つ以上あれば、B項目1つと同等とする。

A項目B項目の内容については次のページ以降で説明します

# A項目・・・1項目でも該当すれば肥満症と診断

1. 高血圧
2. 睡眠時無呼吸症候群などの換気障害
3. 2型糖尿病・耐糖能障害
4. 内臓脂肪型肥満
5. 早期動脈硬化症

## 1. 高血圧の判定基準 (高血圧ガイドライン2014に準拠)

	収縮期血圧	拡張期血圧
幼児	≥ 120	≥ 70
小学校低学年	≥ 130	≥ 80
小学校高学年	≥ 135	≥ 80
中学生 男子	≥ 140	≥ 85
中学生 女子	≥ 135	≥ 80
高校生	≥ 140	≥ 85

## 2. 睡眠時無呼吸

睡眠中にいびきや閉塞性呼吸障害などの臨床症状を伴う2呼吸（5秒が目安）以上の呼吸停止が1時間に1回以上ある。

## 3. 2型糖尿病・耐糖能異常 (糖尿病治療ガイド2016-2017に準拠)

①空腹時血糖≥126 ②OGTT 1.75g/kg (max 75g) 2時間値≥200 ③随時血糖≥200 ④HbA1c≥6.5%

初診で①-④のいずれかを認めた場合は「糖尿病型」と診断する。  
①-③のいずれかと④が確認できれば初回検査だけでも糖尿病と診断する等・・・

## 4. 内臓脂肪型肥満

臍高で撮影した腹部CT検査で内臓脂肪≥60cm<sup>3</sup>  
ウエスト周囲長：小学生≥75cm 中学高校生≥80cm  
ウエスト(cm)/身長 (cm) ≥ 0.5

## 5. 早期動脈硬化症 (評価法を問わず基準値を超える場合)

血流依存性血管拡張反応 (%FMD) ≤ 8.0  
上腕足首脈波伝播速度 (baPWV) ≥ 1200cm/秒  
総頸動脈内中膜複合体厚 (IMT) ≥ 0.55mm  
総頸動脈stiffnessβ ≥ 5.0

※当院ではPWVとほぼ同様の検査として心臓足首血管指数 (CAVI)を使用しています

## B項目 ・ ・ 肥満度+50%以上で1項目

肥満度+50%未満でも2項目以上該当すれば肥満症

1. 非アルコール性脂肪性肝疾患
2. 高インスリン血症（空腹時インスリン $\geq 15\mu\text{U}/\text{mL}$ ） かつ/または  
黒色表皮症\*
3. 高総コレステロール血症（ $\geq 220\text{mg}/\text{dL}$ ） かつ/または  
高non HDL-C\*\*血症（ $\geq 150\text{mg}/\text{dL}$ ）
4. 高TG（中性脂肪）血症（ $\geq 120\text{mg}/\text{dL}$ ） かつ/または  
低HDL-C\*\*\*血症（ $< 40\text{mg}/\text{dL}$ ）
5. 高尿酸血症  
小学生男女・中学生女子  $> 6.0\text{mg}/\text{dL}$   
中学生男子・高校生男女  $> 7.0\text{mg}/\text{dL}$



### \* 黒色表皮症

（高インスリン血症を反映しているといわれています）

\*\* nonHDL-C：いわゆる善玉コレステロール以外のコレステロール

\*\*\* HDL-C：いわゆる善玉コレステロール

## 参考項目・・・2項目以上該当すればB項目1つと同等に扱う

1. 皮膚線条などの皮膚所見
2. 肥満に起因する運動器機能障害
3. 月経異常
4. 肥満に起因する不登校・いじめなど
5. 低出生体重児または高出生体重児